

仮訳

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

フランス国立宇宙研究センター(CNES)

ドイツ航空宇宙センター(DLR)

による

火星衛星探査計画 (MMX) 搭載小型ローバーの共同研究に関する共同声明

小惑星探査機「はやぶさ 2」に搭載された仏独共同開発小型着陸機 MASCOT は、2018 年 10 月 3 日に小惑星リュウグウ表面に着陸した。MASCOT は、リモート観測および、小惑星表面組成分析によって、ミッションの科学成果を大きく向上させることが期待される。

この成功を受け、JAXA、CNES、DLR の三機関は、MMX ミッションについて以下のように協力する意思を共同宣言する。

JAXA 主導ミッションである MMX は、火星衛星フォボスおよびダイモスの観測、着陸、サンプルリターンを目指す計画である。

MMX に搭載される小型ローバーを仏独共同開発することに JAXA、CNES、DLR 間で合意した。

この小型ローバーは、MMX 本体の火星衛星表面への着陸に先立って衛星表面に放出される。ローバーが表面レゴリスと組成を分析することで、MMX 本体の着陸およびサンプルリターンを最適化する。本プロセスは、ミッションのリスク軽減に貢献するだけでなく、サンプルの地球帰還に先立った火星衛星の表面データの取得により、科学的な成果を達成することが期待される。

一次バッテリー駆動の MASCOT の運用可能時間は 1 日程度である。これに対し、MMX 搭載ローバーは、数か月間にわたる移動型の表面観測を可能にする太陽電池を搭載している。

MMX に搭載される科学観測機器は、MMX ミッション成果の最大化を目指して今後決定される。

今後、JAXA、CNES、DLR は共同して MMX 本体と小型ローバーに関する研究活動を行い、2024 年の打上げを目指す。

上記の証として、本声明は 2018 年 10 月 3 日にブレーメン(ドイツ)で開催の国際宇宙会議にて署名される。

JAXA 理事長 山川宏

CNES 総裁 ジャン・イヴ・ル・ガル

DLR 長官 パスカル・エーレンフロイント

DLR 理事 ハンスユルグ・ディタス